第19回 全国農林水産物直売サミット 開催報告

テーマ　直売所の持続的な運営に向けて

～経済活動と地域貢献の両輪で進むために～

◆日　程　2022年11月17(木)～18日(金)　◆参加者　約200名
◆会　場　広島県尾道市「尾道国際ホテル」　◆直売所視察　広島県下の直売所をめぐる全3コース

●経済活動と地域貢献の双方が期待されている直売所の持続的な運営に向けて、課題解決のヒントをつかむ情報交換や直売所間のネットワークづくりを目的に、全国農林水産物直売サミットを約３年ぶりに開催しました。
●新型コロナの感染拡大が続く中ではありましたが、全国から２００名を超す熱心な参加者が集まり、２日間にわたり見て、聞いて、語って、食べて、買って、直売所の持続的な発展に活かすための情報共有と交流を行いました。

●開催地・尾道市で地域に愛されている直売所として「ええじゃん尾道」（ＪＡ尾道市）と「道の駅クロスロードみつぎ野菜市」の活動を紹介。お客様のニーズに応えた品揃えや商品開発を進めながらも、地場産物の販売のみにこだわることで、生産者はもとより地域住民からの信頼と支持を集めています。地域農業を支えながら地域住民のニーズにも応えていく運営方針は、全国の直売所のモデルとなる姿として注目されました。

「道の駅クロスロードみつぎ野菜市」
（尾道市）　会長　綾 目 文 雄 さん

今秋に棚と床をダークブラウンに替え、商品は傾斜方式の配置にした

尾道市御調支所
地域おこし協力隊
大 橋 和 也 さん

尾道市・御調地区の地域おこし協力隊として「みつぎ野菜市」の運営や営農を支援する大橋さん。若い世代から見た直売所の魅力とその発信方法、今後の事業展開の可能性が提案された。

「ええじゃん尾道」（ＪＡ尾道市）
産直センター長　吉 原　徹 さん

広い管内から集荷便を利用して商品を入荷し、地魚も揃う市民の台所

開会挨拶では直売所が地域で果たす役割への期待が寄せられました

大 濵　清
広島県農林水産局長

平 谷 祐 宏
尾 道 市 長

山 本 徹 弥
農 林 水 産 省
中国四国農政局長

臼 杵　徳 一
(一財)都市農山漁村交流
活性化機構 専務理事

染 谷　茂
全国農産物直売
ネットワーク代表

主 催　(一財)都市農山漁村交流活性化機構(まちむら交流きこう)　共 催　全国農産物直売ネットワーク
後 援　広 島 県　尾 道 市　農林水産省　JA全中　JA広島中央会　(一社)広島県農業会議　全国直売所研究会
(一社)全国農業改良普及支援協会　(一社)農山漁村文化協会　(一社)全国農協観光協会　産 直 新 聞 社

第19回　全国農林水産物直売サミット 開催報告　リレートーク

人気直売所を率いる４人のリーダー達から、人気商品やサービスを聞きました

「道の駅みはら神明の里」（広島県三原市）
駅長・時々・シェフ　　中 田 耕 治さん

料理人の腕と技を駆使し、食にこだわった運営。
今春から挑戦する移動販売事業の現況も報告。

「道の駅たかの」（広島県庄原市）
道の駅事業部マネージャー　岡 村　淳さん

大根・りんご・雪など山間の限られた地域資源を
磨き上げ、通年で売れる商品を作ってきた。

「やすらぎ市」（高知県香南市）
店長　三 野 由 賀さん

直営の加工部「キッチンマーメイド」が人気商品
を生み、開業21年目で過去最高を売り上げた。

「道の駅ましこ」（栃木県益子町）
益子町農政課　上 田　昌 史さん

道の駅が直売・加工・営農までを手がける体制を
作り、地場産業振興のエンジン役となっている。

※当初出席を予定していた保園優子店長が体調不良で当日欠席となり、「道の駅ましこ」の立ち上げ担当者の上田さんが代役を担いました。

第19回　全国農林水産物直売サミット 開催報告　　分科会・夕食交流会

現在の直売所が抱える４つの主要課題について、ゲストスピーカーを迎え、参加者の皆さんと語り合いました

分科会①　顧客ニーズに応える品揃えとサービス

ゲスト：道の駅ましこ/益子町農政課(栃木県益子町)　　上田　昌史さん
進行役：おおむら夢ファームシュシュ(長崎県大村市)　代表　山口 成美さん

分科会②　お客様の若返りと新たな顧客の確保

ゲスト：フレッシュ251（長崎県諫早市）店長　　杉内 エリカさん
進行役: まちむら交流きこう　　審議役　吉岡 靖二

分科会③　若手出荷者の育成と確保をどう進めるか

ゲスト：道の駅かなん（大阪府河南町）　　駅長　石原 佑也さん
進行役: まちむら交流きこう　地域活性化チーム長　上野 美帆

分科会④　直売所運営組織の世代交代をどう進めるか

ゲスト：野菜市生産者組織(尾道市)　会長　綾目 文雄さん
進行役: 特定非営利活動法人素材広場（福島県会津若松市）
理事長　横田 純子さん

夕食交流会　～コロナ感染拡大防止対策を徹底し、食事と交流を楽しみました～

参加者間の交流は全国直売サミットの目玉の1つ。今回は、ウィズコロナスタイルで、食事は箱膳方式、1卓あたりの座席制限、マスク着用、70分の時間制限などの対策を進め、3年ぶりに対面での夕食交流会を実現しました。

全国農産物直売ネットワーク
副代表　木村 則夫(和歌山県田辺市)

夕食交流会には平谷 祐宏 尾道市長、丹下 和博 JA尾道市 組合長にも駆けつけて頂きました。交流会の締めの言葉は「道の駅クロスロードみつぎ」の石原 和典 駅長より心のこもったご挨拶を頂きました。

栃木県からの参加者の皆さんも集合して次年度開催地のＰＲ

・夕食交流会も160名を超す参加となり、広島・尾道の旬の農林水産物を使用した食事が用意されました。
・卓上パーテーションの設置、マスクの着用、収容人数の制限などご不便をおかけしましたが、参加者および関係者の皆さまのご理解とご協力により、ささやかながらも対面での食事会を開催できました事に、心より感謝申し上げます

～食事のデザートと視察時のお土産の「はっさくゼリー」はJA尾道市様よりご提供頂きました～

2023年度の第20回全国農林水産物直売サミットは栃木県で開催します。
次年度は栃木県にお集まり下さい(場所・日程は調整中)。